

令和元年度東部地区道徳教育研究協議会

久喜市立栗橋南小学校

【低学年部会】

主 題 名 自分の心に正直に

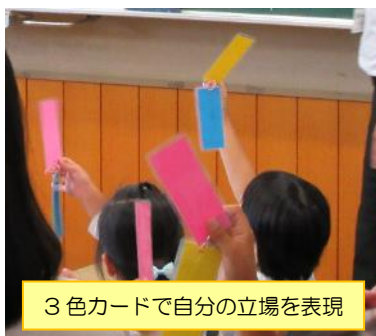
内容項目 A 正直、誠実

教 材 名 「だれのせい？」

(彩の国の道徳「きょうもげんきに」)



気持ちを深める工夫された板書



3色カードで自分の立場を表現



考えを深める役割演技

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

【①教材提示と発問について】

- 教材提示の仕方が学年の発達段階に合っていてよかった。
- 人間の弱さをもっと話してもよかった。

【②話し合い・役割演技について】

- 書いてから演技することで自信をもってできていた。
- 3つに分けて分類している板書が分かりやすかった。

【③振り返りに向けた工夫について】

- 始めと終わりで自分の考えがどう変わったかが書いてあり変容が捉えられていた。
- 振り返りの時間をもっと確保できるとよかったのではないかな。



2 指導講評

- 教材は低学年の子供たちによくある内容で、身近なもの。だからこそ、低学年では様々な道徳的価値があることを知り、そのよさや大切さについて、授業を通して学ぶことが大切である。
- 教材の提示では、紙芝居形式で行うなど、工夫が見られた授業だった。低学年では映像やペープサート、キーワードなど、子供たちが考えるきっかけを作ることが効果的である。
- 役割演技では、先生が相方になることで、児童の考えが深まっていた。
- 書くことが多いと、内容についての考えを深めるよりも書くことが中心の活動となってしまう。何を重点とするのかを考えて授業を計画することが大切である。

